



履歴書の欄に、趣味は読書、と書く人は多いでしょう。本当は全然読んでいないのに読書と書いて、面接の時に何を読みましたか、と聞かれてしまって、ちゃんと答えられなかった、という話もたまに耳にします。純粋な楽しみとしての読書は、本当に充実したひとときを与えてくれます。なんだか楽しそう、と思った人はぜひ図書館で面白そうな本を探しにきてください。図書館ならお金もかからず、しかも今の書店より品揃えは豊富なんです！

楽しく読む

英語科 嶋田裕子

思い起こせば、小学生の頃は比較的好く本を読んでいた。自分のために買ってもらった本、兄弟が買ってもらった本、母が購読していた「きょうの料理」や「暮らしの手帖」など、家の中の手の届く範囲にある本は、片っ端から読んでいたように思います。雨の日や遊びから帰って夕飯までの間など、退屈なときは本を読んで過ごすことが多かったです。しかし、中学生・高校生・大学生・働き始めてから最初の頃は、他にしないといけないことや、他の趣味が増え、本からは遠ざかっていました。再び本を読むようになったのは、耐久高校に赴任してきてからです。長く本から遠ざかっていたので、最初はどの本を選べばいいのかもわからなかったのですが、司書の大藤先生に読みやすい本や面白い本を紹介していただき、すぐに本の面白さに再び目覚めました。今では年間かなりの冊数を借りています。耐久高校の図書館は、様々なジャンルの本があり、新しい本も次から次へと入荷されるので、飽きることはありません。

この「HONTO」では、先生方が色々な本を紹介して下さっていますが、私の場合、読んでみて面白いと思った本があれば、その作家の他の作品を次から次へと読んでいく傾向があるので、まずはオススメの本というよりはオススメの作家を紹介したいと思います。

私は今のところ、万城目学・三浦しをんの小説にハズレなし！と思っています。

万城目学の場合、『鴨川ホルモー』は京都が舞台、『鹿男あをによし』は奈良が舞台、『プリンセス・トヨトミ』は大阪が舞台、『偉大なる、しゅららぼん』は滋賀が舞台と、関西が舞台となる作品が多く、それだけでも親近感がありますし、ストーリーも面白い。



自分の世界を広げる『国境のない生き方』嶋田裕子

三浦しをんの場合、まほろ駅前シリーズでは便利屋さん、神去シリーズでは林業、『仏果を得ず』では文楽、『舟を編む』では辞書編纂などなど、自分の身近なところにはいない職業の人が主人公となっており、小説を通じてさまざまな世界を垣間見ることができ、興味が広がります。

万城目学作品、三浦しをん作品ともに、映画化やドラマ化されているものが多いので、本と映像化されたものを両方を見て、本の方が面白いとか、本のイメージのままうまく映像化されているとか、評論家ぶるのも楽しいです。



私は小説は好きですが、エッセーはあまり好きではありません。しかし1冊だけ一気に読んでしまい大変感銘を受けたエッセーがあります。阿部寛主演の映画でもおなじみの漫画『テルマエ・ロマエ』の作者であるヤマザキマリさんの『国境のない生き方：私をつかった本と旅』です。14歳で欧州一人旅

を経験し、17歳でイタリアに絵の勉強のために留学し、極貧も挫折も経験しながらも、多くの教養を身に付け、力強く生きてこられたヤマザキさんの半生にとっても感銘を受け、その本を読むことで勇気づけられ励まされたような気分になりました。

本を多く読むと、それだけ自分の語彙も増える。読解力もつく。想像力もつく。追体験ができる。さまざまな考え方を知ることができる。教養となる。世界が広がる。などなど、本から得ることは計り知れません。本は人の心を豊かにしてくれると私は思います。是非、一冊でも多くの本を読んで、心豊かな人生を送って下さい。

最後に、英語科の教員として、英語の勉強についても少し触れておきます。実は中学校英語からわかっていないという人はいませんか？その状態で高校英語を勉強しても、土台ができていないので更に苦手になるだけです。図書館には中学英語の復習の本もありますので、それを借りてきちんと土台を固めてください。英語の勉強の仕方がわからないという人はいませんか？そんな人は、『世界一わかりやすい英語の勉強法』など勉強の仕方が書かれた本を読んで、確実に英語力を伸ばす勉強法を身に付けてください。他にも、図書館では英語の本をたくさん買ってくれているので、自分のレベルに応じた本を読み、読書を楽しみながら英語力アップに役立ててください。どのレベルから始めればいいのかわからないときは、司書の大藤先生はもちろんのこと、英語科の先生にも聞いてください。

